

舞台芸術の重要性について

文化審議会文化政策部会
舞台芸術ワーキンググループ 意見のまとめ（抄）

1. 舞台芸術を振興する意義

（1）真の心の豊かさを実現

- 舞台芸術は、創り手と受け手が時間と空間を共有し、感動することにより、舞台を通じて人々に真の心の豊かさをはぐくむものであり、衣食住と同様に人間が人間らしく生きていくために必要不可欠なものである。

（2）新たな価値の創造と経済・社会の活性化

- 舞台芸術は、それ自体が価値を有すると同時に、観光や産業などの経済活動において新たな付加価値を生み出す源泉であり、経済・社会の活性化に大きな効果を発揮するものである。また、地域の文化芸術拠点において、日常的に創造・鑑賞活動が活発に行われることは、地域における雇用を生み出すとともに、地域経済・社会の活性化に大いに貢献するものである。

（3）子どもたちの豊かな感性・創造性等の育成

- 次代を担う子どもたちが優れた舞台芸術に触れ、感動することは、次世代への文化芸術の継承とともに、子どもたちに豊かな感性と創造性、意欲をはぐくむことにつながる。さらにこのような創造性をはぐくむ教育は、現在の産業を活性化するとともに、新しい産業を生み出す原動力にもなる。

（4）ソフトパワーと国際貢献

- 現在、諸外国は自国の文化芸術の発信を通じて、ソフトパワーとしての国の魅力を高め、他国との文化交流を通じて、世界の文化芸術の発展に寄与しようとしている。我が国もソフトパワーとしての文化芸術による国際文化交流の推進により、我が国への理解を促進し、文化芸術を通じた世界への貢献を積極的に進める必要がある。

（5）人々が共に生きる絆と社会基盤の再生

- 近年、地域コミュニティの崩壊や引きこもりなどの増加が指摘されている。人々が共に文化芸術に触れ、その創造にかかわることは個人にとっての居場所と活躍の場が得られるだけでなく、人々が共に生きる絆と社会基盤の再生につながるものである。

舞台芸術人材の育成及び活用について
～文化芸術立国の礎の強化と未来への投資～
(平成21年7月31日文化審議会文化政策部会報告書)

第1章 今、舞台芸術人材の育成と活用を図る意義

(1) 舞台芸術振興の位置付けと意義

- 音楽、舞踊、演劇等の舞台芸術は、このような文化芸術の中でも、創り手と受け手が時間と空間を共有し、1回限りの生の緊張感の中で、舞台を通じて人と人とのつながりを深めるという重要な役割を果たしており、社会共通のアイデンティティの基盤を形成する上で不可欠なものである。

また、舞台芸術は、享受する観客のみに効用があるのではなく、多くの人々にゆとりと潤いが実感できる心豊かで夢のある生活をもたらすとともに、観光や産業などの経済活動において新たな付加価値を生み出す源泉となり、国の「文化力」を高めるものである。同時に、芸術に関する教育や体験活動を通して創造性に富んだ人材をはぐくみ、グローバル経済の中で勝ち抜いていく国際競争力を生み出すことにより、豊かで高品質な国家を実現する原動力となるという重要な意義を有している。